諸藝小鏡　四

祝儀おさまり肴に取肴
のし　こんぶ　くり　かんぴやう　かちぐり
まんぢうやうかん　ぐみ　鬼(オニ)百合(ユリ)　鬼あざみ
おこし　ちまく　むしげ　いちごの実　菜たね
あられ　だんごうけ　海苔
其外新(サウ)菜雑(ザウ)草までもなり取物　継(タイ)合(ハヒ)浜(ガン)岸
桜もんげつ　じゆんさいまはりまへしおきて
柏(カシ)すみかとりたるたぐひ也
祝(シウ)言(ゲン)もゝ取物
猿(サル)ぎつね　いちご　おとつあとらねども　つゞすれ

沢の竹　女郎花　きゝやう　撫子　川骨などにて
萩(ハギ)　つばき　つゝじ　うら菊　ものぶ
ふだ蕉(ハセヲ)　ひと本なき枝　一本　一花一葉
一向(カウ)なくすべての生物
ぼけ(?)　黄(キ)連翹(レンゲウ)　若柳　むくげ　やまぶき
藤(フヂ)菊(キク)　黄菊　つゝじ　みそはぎ
山ぶき

立合の物
松に秋　梅に篠(サヽ)　竹に菊　つゞみあざみ
梅の枝　柳にせきせう　桔梗にわれもかう

砂の物

砂(スナ)の物は立花(リツクハ)をやつしたるものなり立花の心なくてさみしき鉢(ハチ)に株(カブ)のみひきてんをさす也くずまたちの鉢は鉢(ハチ)の中(ナカ)すきに立てむらひとりなみをおさゆるも二(フタ)株(カブ)砂(スナ)の時ならんの方よ又株二つと二つありふの挿(テイ)付木口切(コグチギリ)ひのそ花式に生けんばもとを成べしみる用にもすべきはもの株二つ株の立分(ワケ)てもとより見も立てるて二つあるのとしるし又挿(テ)さるもとより株(カブ)株生(イケ)る花へ向ふあなたのあはれつらひ

一 ちと花は定式なくしてつりあひよろしけれは
くふうして吉　心横は長さもひとしくすべし
相手横をとるは外に心をうつすともつま
一 二構ある一色　胴の所しらむ　あらためよ
小花組ものも同じ物いらず　あしらいは左足
又花の離たる本なるべし　胴縮もなら立花にも
かかりてこれも其物をよくしらべてくだの内
前ぞおさやうなきよくべし　又割流枝の
立花のかたくは事なし
砂物もしかる事

請乃陰に控枝より入構。心と前大石を
を飛又はすぐひかへ去つる前も下草は立
たのごとくこれふさぐも是あで構のめ
つるに立て上下を流ひつくるも砂物ては
めしらぬ陰るいくふかくも前るを見て
枝ものは砂を向くべし　何をも前へむさ
こみ乃ひまかひおれめるまく附通し
割流枝などにくく出る物へはるの構え
前後のあげくより　砂物も一式物と見す
一 水松　控へつなどの草は中へ入るこけ

はきれゐぶんをとめ申也

入花の事

なげ入といふハ一つの花を花入ハ竹 ひさごたん
籠(カゴ) 陶(トウ)利さまざまあるべし 指様さして定式(ヂヤウシキ)なく
しだいのまゝにいける也 花枝葉のびたる
物にハつぐまゆうあるともとり 縦(タテ)にも横にも法(ホツ)にも
よろしからぬ様意也 数も定りなし 大体(タイテイ)
三種二種も生(イケ)る也 又三種五種も生るまで
なれど花入りのなし 縦(タテ)へ會ハ口の狭き物に
い挿しつ藪(ヤブ)をよくしてけしりきる物をけづり細

やうてさゝへハ刀をかくし 藁にて巻物をさし竹
にても本にてもよくおさまりたる物をけづり
蓋ふたあるくしてしゆそさすも本竹ハあま
つまりなるにありなし
うけ鉢(ハチ)生(イケ)に又柳もさし入りてしるしまでさしのぞき
よしとなりの刀のなかりしものに大輪(リン)ある
むかし葉を包みて(ユヱ)そのまゝの吉をうかゞふべき人に刑(ヒナ)
なれども花どは気(ケイ)なし
深鉢生(イケ)にハ下へさがる物生るにも形(カタチ)によく
合せしなれども盥(タラヒ)うす板に下ず氷をおくべし

つかぬものなりしかへし
耳(ミミ)弦(ツル)の有花生ハ耳弦(ヅル)の上(ジヤウ)え挿ての
くらゐあるやうにいけへし弦の無物ハさくさく
物とはせざるへからず
角(カク)花生(ハナイケ)ハ宮中の角(スミ)え挿べし出生
籠(カゴ)なりハ甚だしく入べし
籠に入花ハ口のめつらしき舟の上
よきにも挿をさしあやうからず 縦令(タトヘ)
よきところにても八挿にもなれは如之
うすく挿べし事 角花生にハ九挿べし

丸花生にハ角挿べし 籠にハ落挿べし
つり舟ハ花生なげ入 出舟(デフネ)にハ入舟にも
を枝葉花ともに舟のうちへ出すべし入舟ハ
出しやう ろくにおさめぬべし 釣(ツリ)花
くさりにもまた竹にてもかけるべし 床(トコ)の
柱にしかけつる 中釣(チウヅリ)にも釣は床の
天井(テンジヤウ)に掛也座敷せばき時ハ舟のうち
舟花生にも舟の姿と釣る平(ヒラ)多(タ)舟とも
八舟のうちにさして出舟入舟すべし
かり舟のもとよろしくべし 水ハ内の口の

上ゟよみあぐるやうにあるべし
二字切の発句も生ずる時は上の字より巻を
生下此字にかけ水引のやうにとるものも下此字を見え
ハ上ゟりつゞきひろのうつとうるやうにてイ
行しらぬ折要也さればこそ下字に移して
つゞるなり
扨て又花より残花をさけいよ／＼うつるなり
詠作とせる人を見して目す御ぞ折も
えらび花をめぐらし詠多しせんべし
其花の人の詠事所を見そのもそのかも

きづかひなきよりなるとまうす色ぐさにて申す
とうべしすくなりてみる時は撰盤をとるべき
てこそ也
花の跡れ流しゆきまでかなたにかを上ぐ
ありなんまちはわかず也但まちもありたと
斟の文むを撰みひて浮す也主人女
ぬめかくるもわくとゆくも月おも

連歌誹諧之訳

連歌は和歌の綱よつ経て風をとるはなはだく
らかくし誹諧はそれに俗語をゆるして打ちき

るゝ事なし如経のごとくなるべし
万句の発句 千代が秋くれをはりて其日は
といふ まん九おもくもちゝ春日は
発句 表の見出しの新式無言抄にも連ね俳諧
もたれひさし四傘(ヨカラカサ)なども連ね物にて俳諧の
ばんとてえいとのうて連歌(レンカ)に二句去(サル)物は俳諧へ
三句ざり三句去(ザリ)は二句ざりにして俳諧
いふやうにしてもの俳諧(ハイカイ)とりあつかふ
すとてよびして作意(サクイ)やうしてよびて見まいらすと
まくのびて俳諧にては作意を専らとすべし

とかや見なく其句法は替りたる事なし
発句切字(キリジ) 第三月花の句法は連歌俳諧とも
かはる事なし

発句切字の事

発句は季(キ)と切字なくては平句(ヒ)に紛るべし
がといひて常の付句(ヅケク)に紛るゝ 季といふ
春秋冬の事也 夏の事也 雑の事よ 当季
しる事也 切字とは 哉 なり けれ ぞかし
ぞかり ぞ や か 哉 を いく いづく
いづこ いづれ いかで どれ どち 何 いさ

なまなり めり なれ なり あり もあし
あなし そそ らし らん し 此の字をは しいうく
ぬ たとへばぬるとぬいとれ きのはい 志なとい下書 たとへ外下知にて
とぞゆくさ候とも下知とい もあらけくや
月みるへ 気るあけま かど共ならり下知
去る須も 又上(カミ)ゟ下知の須なそ下(シモ)寒かし
ど先上ゟそそとひて 下ゟ式しとせん後
宗(ソウ)道(ニヤウ)のりとぞや 儀(レ)あ(タテ)ひあり
○し けりし 花咲し 花箸(カウバ) かど月(モ)あの
しせもと次ちのしとえつよ 又る去のしハ
比ゐ遍しまとふしかにて右のゆあかれぞらいこの
しと云も

○ぬ
ぬの字ハ あかぬ ちぎれぬ 不飽(アカ) 不離の文字
是也 ぬれぬるも 家こしぬ なちりぬ 是いとさ
之年 歌ヨの義にまえ年ぬとつる也 余ハ准へ
たとへ外 お歌海ちし と海ちし 三段切なとぞ
いかまかを稽古(ケイコ)治(ニヨギウ)の上(ジヤウ)なでて師の許(ユル)
されずも
肥(ヒキ) 指南を受るにまさぐひて皆(ジ)節(セツ)に在
ぐのわすみなすとも海りハ月雪花本名
歎(タメシ)し名をたたぬ 類(ダイ)の物かくとも る
海くさむく あつくかなはずの実に
てへと海ふず

第三　是はてどめ　らんどめ　又は句移(ウツリ)て
よりてかるましきとも見えしも伝(デン)
事(ジユ)見るもの事え　らんとゞめと定め上手はつゝ
ぞ　又どめは終るゝひの類多くてらんどめにも
ゆ　移ざらんも替てらん　ゆゑんなるなるもの
四句目　是は旅とかるくて一句とも付く
行つゝと伝ふ又と見えぬ古句多り　是り
おとぐしやすくしと出て第卿紹巴(ジヨウハ)の説なり
文字(モジ)にて続(ミテ)雪　多かゝしく何りなるもあり
ぬで上(カミ)の句とすて　てどめ　後どと見えし乃句也

第三乃句を作る事は去るべし
百韻(イン)の事　面(オモテ)八句　裏(ウラ)十四句　二ノ面十四句
二ノ裏十四　三ノ面月　三ノ裏月　名残(ナゴリ)ノ面月　名残裏
八句　以上百韻也　懐紙(クワイシ)四(ヨ)折(ヲリ)也　又哥仙(カセン)は面六句ウラ十二
二面十二　ウラ六　以上三十六句　是略儀也
月　月は面裏に有り　花は裏ばかりに不
是も月は七乃七句目と定むべし　発句より
月をも面八句目に用る　二ノ折から三
句よりの月をするなり　又始る月は早く出し
まかせ　又まち(?)に花乃句も又

花

うら乃十三句月也ともを定座(ジヤウザ)とす

組掛并三所も花をすつる也　花乃句也月を結(ムス)

びてすつるを月花のるといふ也　月は定座より

前にもおもひよるにまかせて表乃句も月花のみ

一座に一句おもひでるせぬ物也　花と月乃句

ありても出遊びる人にさせて雑(ゾウ)出する時も

終じて花乃句をめんく毘(ビ)下(ゲ)して出ざる事なく

ひとまの追(ビ)分て一折ある所に十三句月追(ニビ)て又

あまり乃花を下地なるにすぐるやうにかくさ人

て上ノ句ノ十三句とかまりそれより十三句

月定之所とかまりきてさがりまで花なりくぐとも

よそであり乃如くにより独吟(ドクギン)又た会席(クハイセキ)にて

も字数など所に出るすとも又は能句出来(デキ)

承所るきなる人定出しても其何

もくるまでも裏乃六句目より所にまかせ

とせあるく終又きれたる所たるも三句又句

せずして花(サ)かりれるまで六句七句

これさがりてもさ出るも出いて又句さかり物

如也人十二句月定所句なもで花乃定座又句

表乃表二句くするやへせいふかりて人の表

出しうるゆゑ花をよびだしおもしろかるべし
おもりまへそなたの句よろしからば三句目
よりこれを人々出せしたるかるべし
折にひとつぶれども雑の花の脇の秀句
むさとしる又雑の花といふも余花の季
外の類也他の季のおもといふ余花の事
是八句より神祇　釈教　恋　無常　述懐　名所　旅　人倫
囲　名和とあるも神祇との神のまへとも
継ぎは神の神ぷ仏神又は縁ある
ありて一切神の事たるまでも　釈教也

仏法之　仏経　寺　塔　僧　衣　など仏法より出る物
其外まだ是あり求めて知るべし

句数之事

春秋之句　三句より五句をつゞけて足　三句よりいくつもつゞけず　付句五句去り
夏冬之句　二句より三句迄去嫌五句　其以句上そつゞけもよし　月五句去
神祇之句　一句みてもよしつゞけても　ては三句迄も　月三句去
釈教之句　月お　述懐　無常　一句にてもつゞけずに
恋句もすゞけ無常述懐三句いづれも三句去
つゞけず述懐とのかはり述懐とて用ひて
又述懐無常述懐と述懐とのおもひとうと
なるさそのおもひふかくも恋にて
出ることつゞけ名残も八んぶまでつくる三
いふそいを述懐といふなり　又懐旧とて

みな氣を付てよくつゝしむべし此儀と心得べし
あまりひろくなりてはいかゞ也　付句　月前

云てし句

二句より折句に一句にてはすてず
去の字の類をさらふなり
一句にてもよし三句去もつゞく事也二句去にても
後を去や前の風情などもくるしからず二句去也

居不

付句三句　○云類
寺家ハ居不　ざりも
しかれども　付句　月上　○水辺
句つゞき月上
ふくろの如　橋　岸
それより　付句三句
つくりなり　付句。○主君といふ
二句去なり　○人倫
人と云と云ハ人倫也
僧師ハ人倫也　僧師やとするハ人倫也
雀てあるもの　○植し句　三句より多く
生類の物也　付句三　句去也

○生類

鳥と鳥虫と虫魚と魚と　付句　月上　○又鳥と虫と鳥と虫と乃
草木のとゞまりの　どくくもくく也
生類ハ二句去り　○植物　草木ハ二句より三句去
かゝり　くいつけず本と草
と草　付句三　○又木と草とは

衣裳

三物也　雅なりとも衣類也二句去
つくりは衣類ハ三句去也
神と三句去　神と　付句三
付二句　○夜分　二句より
去也　付句三
秋分也　○降物

降物

雨あられの類　霜
付句三　句去也

聳物

霞　雲　付句　月前

右ある内ハ内にて知るべし

四季　正月

立春　年越　去年今年　門松　若水　四方拝
星をまつる　初声　初鶏　初拝
若えびす　年徳　書初　年男　なづな　雑煮
くいつみ　謡初　若ひかれ　鶏
みしざうが　ちぎ　かざり　ゆづりは　年玉
吉書　さわ始　けがき　黄薬　千秋万歳
がつを　ひん始　五日　弓初　うつの
卯杖　腹赤の奏　鯛　裏白　おかりく
ぎちやう　羽子板　手毬　暦ひらき　氷の様

屠蘇白散　松かざり　七くさ　なるかひ
御霊　初寅　若菜摘　鰐口　神事　七日　白馬節会　七日
御斎法　小斎会　八日　左義長　踏歌の節会　十六日
平兵　十五日粥　内酉　厄神参　十九　廿日だんご
去年かざりしまつる　若菜　そとくる　餅
がくら　鶯　三月　桜のみ　かたち　見
ねむらく　下もえ　角ぐむ芦　牧野
梅かり　桜がり　かげ　梅のたね
みる　梅の花　高衣

二月

二月堂行　十一月参帖　新能　中和節　一日初午　去来参

餅くばり　仏のわかれ　比良八講（ヒラノハツカウ）　ねはんぐもり
遺教経（ユイケウギヤウ）九日より十六日まで北野千本釈迦堂　涅槃像だしまつる十五日　在々
二郎太郎（ジロウタロウ）十六日　初彼岸（ハツヒガン）　御影参（アサナニ）廿日　柳　三月より　蛙（カハヅ）
燕　つばめ　つばくらの巣　鳥帰（メカ）る　帰雁　蛇穴（ヘビ）
を出る　鳥のす　鳥のさへづり　うそ　こまがへる草で
もえいる　くいなる　すごさきすみ　春なれや鶴の巣山のきじのこゑ　そらく世のさく
さえかへる　おぼろ月　三月に　わたる　雀子（イトユウ）　うぐひすの
かげろふ　あさみ　糸遊　ゆきのはて　春のあらし　あたゝか
くもれ　暴風（バウフウ）　うどくちぬさ　すぎな　わらび　つくし
びはんさく　ゆびのはら　まむし　つぼみ　ちぢみぐし
あさつき　薺（ナヅナ）の花　すみれ　あざみ　たんぽゝ
つくし　ちさ　くこ　鶏頭（ケイトウ）　むかで　たびのさか
ちりしる　森のやけのゝ　きゞす　あさがほ　そばさし
うきだし花　田がり　めかり　よもぎ　ひだこ　いう
はぎり　まどろみずき花

三月

巳日の祓（ハラヘ）上ノ巳ノ日
曲水宴（キヨクスイノエン）三日　ふりかけ餅　めくらなげ　ひなまつり合　桃
祇園（ギヲン）旅立（タビタチ）手　古今伝授衣紀　長谷山参　三日　参
清水参　閏日　一言参　岡崎（山城）　水尾参　九日　聖護院（ヤマシロ）
石清水（イハシミズ）　平野参　十八日（ナカノ午ノ日）南京（山城）　やすらひ花　鎮花（ノミドリ）十日　三条山城
今宮武大和　十一日　天台花ね緑　さがの太念仏　六日より十五日　嵯峨山門

壬生念仏 十一日より廿四日まで 大念仏 南寺 [illegible] 山列
[illegible]植 十九日 [illegible] 雉(タカヨノ) 法花会 十日 山列 比良八講
十一日 御影供(ミエイク) 廿一日 弘法大師 いなり祭 初午日 山列 [illegible]の[illegible]文入
山依 彼岸入を逆の 花 [illegible]
しほひ 木蓮花(モクレンゲ) きやくさんげ ちんちやうけ 小米花(コゴメ)
すみれ 小梅の花 あせびの花 さくらの花 柳の花
つばきの花 杏(アンズ)の花 つくづくしのはな まつかさ 柳の花
桃の花 やえの花 なしの花 やまぶき ふぢ
菖蒲(シヤウ) 蒲公草 金鳳花(キンポウゲ) 金盞花 丁子草(チヤウジ) 眉作(ミエツクリ)
のびる ひばり つばめ [illegible] あかえん

えび ねぎ ぜんまい こごめ くこ 菖
わかめ りやな 蛙をかく
きそ め 坂 あさせ つく 御祭 一日 戌ハ初午日 [illegible] 江列

夏

四月

[illegible] 更衣(コロモガヘ) 白[illegible](ミヅガヰ)
[illegible]の祭 灌仏(クハンブツ) 八日 仏生会 [illegible] 戒 [illegible] 月
平野祭 九日 山列 稲荷(イナリ)祭 上卯日 山列 八瀬祭 辰日 山 秋祭 上子日 月
多賀祭 月 吉田祭 月 久世祭 中巳日 山列 [illegible]祭 四日 山列
八まん祭 中卯 江列 山王祭 中申 梅宮祭 上酉 山列 葵祭 中酉 月
鴨祭 [illegible]祭 中亥 山列 向祭 月 大原祭 上卯 吉田祭 中子 月
まり
立田祭 四日 大和 千だん 三井寺 十六日 [illegible] 大和 十四日 榊(サカキ) [illegible]
神祭 [illegible] 牡丹 [illegible]

芍薬えびすぐさ 枇杷 [illegible] あふひ草 二ばぐさとも あふひぐさ
玉まくす 一八(イチハツ) 岩たばこ しやが 数珠子(ズヾコ)の花 岩菊
風車 ほうちやく [illegible] 木瓜の実 卯の花 [illegible]
大又 岩つゝじ うつぎ 若楓 若竹 若葉の [illegible]
桐(キリ)の花 びいどろ草 けしの花 ちいさきを [illegible] 又 河骨(カウホネ)の花
てまり花 [illegible] 竹の子 [illegible] 橘
萱草の花 [illegible] 芭蕉の若葉 なでしこ [illegible]
やみ [illegible] よし [illegible]
[illegible] 日(ヒ)ノ長さ [illegible]
[illegible]
ころもがへ 鼓 鹿の子の角(ツノ) [illegible]

五月

なつすゞし 短夜 [illegible] うすき衣 一夜酒(コザケ) [illegible]
あしぞろへ 一日かものけいばの 競馬(ケイバ) 五日 [illegible]祭 [illegible]
端午(タンゴ) 菖蒲 薬玉(くすだま) 百合(ユリ)草 [illegible] 祭 五日 [illegible]
[illegible] 五月雨 [illegible]祭 八日 今宮祭 十六日 宇治明神祭
十三日 [illegible] 社祭 廿三日 住吉の田植 廿八日 [illegible] 廿八日
山田の田植 伊勢 梅の雨 祇園の御輿洗ひ 廿日 [illegible]
の祭 [illegible] 麦刈(カル) [illegible] 藻(モ)の花 藻を刈
[illegible] 百合(コリ) せんだんの花 [illegible]
早苗 さし女(ヲトメ) [illegible]
まつむし 花 [illegible] あやめ [illegible]

金絲花 りんだうも 萱 らんに似たり ちやうせんとも云 夏菊 錦葵草

ゆたくび くちなし草 くちなしも 御ばし草 早松茸

わうぎ あさがほ さつき つゝじ びらうどつゝじ 吉野草

ひなさうも はかうれん あんずびわ まくわ

田草取 あをうめ こぶし ひへ ごま木瓜ぬく 又

大豆うゑ麦 蛍 なつびく くちなわ 水鳥巣 黒鴨

ひとゝせ名も七とて七ひろ 毛虫 紫蛉 鶉 紫鵜雛

夕月のかぬけうらえのもし

鵜川 鮎 鹿の子 ほとゝぎすのこゑ 秋いり 鶉乃す

照射 やぐし 火串 秋より紋あり 田夫有が出る夕月をひとえのくびら

へびの衣ぬぐ

六月

氷室 氷餅 いはふ ひとつ減る

六月会 四日 伝教ノ忌日 祇園会 七日 十四日 津嶋祭 十四日 尾州 勢田里祭

明王 竹生嶋祭 同月 同嶋祭 十四日 安藝 山王 同日 武州 お定日 夷

なるゝ祭 十六七日 らくせん わかきうちに 蝉 なきめのすゞみ 十六日

鞍馬寺竹切 廿日 山州 箱根詣 いかなる法語 天満の祭 廿五日 大坂

まくひ 炎気 あつき日 汗 清水むすぶ 水無月能

賀茂 廿日 行者のはらひ 廿四日 津国 愛宕詣 廿日 江州 土用干

廿日 以後人形とつくりて身のさいなんをうつし流すなり 夕立 夢乃瑞 さてもこれはいかなる事ぞや やまずとて 仰せ

土用干 風かをる 毛乃まね からさけ 酒 たけのこ

竹の子のあつまる 遠出 こかげ こそ涼しさ 夕立ちの茶 川狩

すゞみなり乃物 七

梅ぼし 梅づけ 早桃 やまもゝ すもゝ つゝじ

かやつり ぬなは 百日紅(ヒヤクジツコウ) 石竹 蓮 はちすの花 かうほね
ひしの花 実ざくろ 海ほうづき みる 蘭 かうせん花
ぐんばい 小判草 ぶだうしゅ さつき草 つりしのぶ さう
ねむの花 わた 茄子 ひるがほ 夏ぎく なでしこ
木瓜 夏菊 さゝげ 茄子 鬼灯 秋をまつ

七月

蜩 立秋 一葉 一葉舟 梧桐 柳ちる 木
槿 朝顔 六日 七夕 あさがほ なすびの花 てりはぎ かげ
ひけ 織女 二星 天の川 年にひとたびのちぎり あふ
ふみ 梶の葉 ほしのきぬ まつり 梶の葉 乞巧奠 七日 迄 星合
文月 八日 六道参 山別 千日参 十日 以上 うらぼん 七夕

き 盂蘭盆 玉まつり 高燈籠 精霊 ほそゞめ
まつり あらひ 生身玉(イキミタマ) 蓮の飯 さしさば 燈籠
燈籠 おどり 女郎花 十六日 地蔵まいり 燈籠
月 安部 茄子の馬 十五日 十八日 相撲 水かけぐさ 施餓鬼
廿四日 六地蔵 山別 鶴 ぎをん こんぶ 盆の葉 御霊(ゴリヤウ) 祭 八日
家 まうで 稲の花 みなみさ 初嵐 刈萱
なでしこ 虫 ひさご 顔花 女郎花 萩 蘭 藤袴
なでしこ 小車花 ところ 太子草 すゝき
仙翁花 葉 鶏頭 玉蜀黍 やくしさう
くずの花 やり花 なでしこ 茎のと 萩

桃 がけのこ えんどうのむし くつわのむし 早苗 むしの早苗
わくさのむしや きよのむし 鈴虫 ひぐらし 秋のこゑ 鈴虫 松むし
そゞ虫 きりぎりす つゞれさせ こほろぎ みのむし
みゝず鳴 いなご いもむし よなべの露 初鶺鴒 鶺鴒
鵙 うづら

八月

八朔 たのむの祝ひ 水村祭 一日 泉州 天
中元 一日又七月廿日生気の方の木をきりて
野祭 四日 京 さてひげの剃帳 五日 つくば祭 十日 越前
しテ 放生会 十五日 山州 やはた 八幡祭 十五日 伊予 浦祭 同日
宇佐祭 同日 豊前 箱崎祭 同 名月 十五日 待宵
ひ 十六日 立待の月 十七日 居待の月 十八日 臥待の月 十九日 玉兎
玉蟾 朔日 三日月 十六日 駒むかへ 駒ひき 駒牽人 十六日
御霊祭 十八日 豊国祭 同日 伊勢 放生会 初紅葉 うす紅葉
音羽姫 秋の夕 中秋 三月二日 お洲先 むし野 あさがほ 蕣
うるしや きゝやう 桔梗 萩のはつくさ 月草 露草 蓼の花
くず すゝき をみなへし 野菊 あさがほ 女郎花 はぎ もみぢ ふじばかま
つるもどき 金剛草 つゆ草 うす紅 玉づさ 草
桔梗 あけび ほなぞ 芋 まこも 衣打 きぬた
かたばみ 大根まく 稲負鳥 雁 小鳥 ひよどり
つばめかへる うづら 鶉 雁 秋つばめ 小鳥狩

鵆 りんすゝきくさ 木をとりて本草の枝木 とり糸のあまりすゝき 小鷹狩 さしば

まつむしてぬりまいたつ やまうとかたとりつし うぢうあく 菊 さび鮎 落鮎

下りやなからつきやまなみ 森 錦ぎくすゞり 初さけ 江鮭

時参 八月九月は 初しかり 田もる原 田もる あかご なす

ひしろ うぐし きれもし ぬすごろあやす

九月

桂乃花 相撲 八日 泉涌寺舎利会 九日 重陽宴 菊酒

あさ出雲 新酒 ひやごぞ参 九日 山州 御香宮参 月 鞍馬参 月

岩舟参 月 生玉参 大坂 十九日 四天王参 十日 下鳥羽参 山州 十日 例幣

十一日 伊勢太神宮 内宮の 住吉相撲 十三日 住吉市 月 白川参 山州 十三日

後名月 大豆名月 栗名月 二夜月 月名残 天王寺参 月

一心寺参 十四日 出会参 十五日 大念仏参 十四日 錦字舎

粟田口参 廿二日 山州 一宮参 河内 十八日 神田参 月 山州 十日 山崎参

中巳午 呉服参 十八日 摂州 ひやき参 月 十七日 藤森参 廿日 八幡放生

周 の祭 廿日 城南寺参 山州 廿日 上鳥羽参 月 竹田参 月 天王寺縁

灌頂 廿日 摂州 太秦参 十一日 山州 縫殿参 月 廿三日 天満やぶさめ 廿五日 大坂

菊 きくがさね の衣 菊綿 菊合 紺屋 のりつぎ ひて 小竹 寺

あきぐさ 首又 木のとちの 枝の すびて 九日 小袖 楓

あをうれ 木の実 樹 九年母 柚 採 刈 橘

さくろ ちんみ どんぐり あまの実 ちのみ くこ さも

くり 椎の実 梅もどき 柿 山乃実 山の葡萄

しぐれ [illegible] 寒の[illegible] とらへ
[illegible] [illegible]を [illegible] 実 [illegible] せん[illegible]の[illegible]
[illegible] [illegible] 寒梅 筆柿
[illegible] 落葉 [illegible] 芦の[illegible] 思ひ[illegible]
[illegible] 月[illegible]
[illegible] [illegible] 新米 [illegible]
[illegible] 十三月[illegible] [illegible] 肌[illegible]
[illegible]

十月

[illegible] 一日[illegible] 十日十夜念仏 六日より [illegible]

法花会 二日 [illegible] 十日 金毘羅祭 さぬき 十三日 日蓮
[illegible] 十三日 [illegible] 十六日 [illegible] 廿六日 [illegible]
中ノ亥 [illegible] 集 月[illegible] 廿日 小雪 [illegible] 法[illegible]
出雲 [illegible] 大念[illegible] 十四日より [illegible] 十五日内 [illegible]
[illegible] ひ[illegible] [illegible]の[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible]
[illegible] 柳[illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] 月[illegible] [illegible] 氷[illegible] 千[illegible]
[illegible] 水の 氷[illegible] [illegible]

鴨 あぢ乃村鳥 黒鴨のかうも 水鳥引 和犬にくけぐ
名らぬ名なり ものを狩りする
たか 擶 すゞ鷹 こたつ 紙子 ふとん つきん
石なれ かうさ 十一月 山科祭 巳上 平野祭 卯上 吉田祭 明 杜市
祭 乃東ノ祭 月 梅川祭 酉上 梅宮祭 卯上 中山祭 月 松尾祭 月
大原野祭 中子 吉田祭 申中 日吉祭 丑中 太宰府 ……
五節 丑中 寅中 稲乃つらひ …… 日吉臨時祭 中申 賀茂臨時祭
院祭 下酉 春日臨時祭 廿三日 里神楽 …… の衣 月孫 ……
いひたき 庭燎 子祭 子日 吹草祭 八日 …… 十三日 ……
川のあじろ …… 太師講 廿四日 …… みぞれ
あられ ……
あま …… つらら 垂氷 …… 氷 ……

水仙花 鴛鴦 …… 千鳥 ……
追鳥狩 ……
十二月 …… 朔日 …… 九日 …… 廿二日 ……
荷前 ……
荊の …… 長
年内立春 ……
節分 ……
……
年忘 ……
早梅 早梅 ……
…… 天八 三味線 …… 引
…… 以上

ゆかりある事　さかえる也　節みんに付て節よく
かさん上手なりとも唯(ただ)ふしかたさやうにみたしかなむ
づるも古人(こじん)かの朝に節をとらまへて
よ曲をとらまへるの拍子(ひやうし)を知るまことにみるすなり
詞さへよくうたへて節は知れたり知るあり
に節をよく知らんとさぐらず謡(うたひ)自由(じゆう)や
みかられて節ふんのつく節　又かし印して
んぞ師匠(ししやう)のごとく水もちずも合じとゝく
つじ弟てひとくてうく　加も
ふかいなる　あるいめつよのつれあり節を張(はり)

てきくらう節ともゆかりてもまらをも　節を
ゆゑりて知るくらうかりいんかふ流く謡也
謡ん拍子　古き謡の絃ふたつまで今はやる也　継だ
庭鉢(テイカ)あかつご唱(ショウ)子内(ナヒ)話(ロウ)の絃を知るめし者
常にすうくしくらひ　にはかなる能の
らうめ　ちゃらい合戦のさい　舞上(アゲヒバリ)あらいうて
しかま守りの絃の中にもういからふに
てきねのかむしのさいだやうし節紀る
ひ出んつてなり
人の謡に付るみともいふ節をなしても今

ゑらびひく〳〵ならべ思ひをそへて付べし
淫を鄭聲といふ新聲といふなり　小うたひは君之
教にはあらずして淫をうつしてそのまゝなるべき
幽鄭聲は亡國の淫聲としてうつりて鄭を
そだてぬるものなり
なりつるもの　宵みれば物數のうちにも淫
あるものへひきうつしてうたふなり
俗やうの人の心は女をうつしてふくべし
あつきゆへ聲をうつしたるときは
くらき中に入てうつしたるときは

つまおとくもてうつし聲らきをもつひてうつし
ふくを聲は女樂を好ミ別に付わかつて用也
べし　其あるときはうつしてふくべし
一節切竹の事
尺一揆のひと　瀬みナ三し名なり穴の起
ふ　惣の穴をふさぎてふく也
い　惣の穴をあけてふくなり
や　一二三穴をあけて五穴をふさぐ也
ち　一をあけ二三穴をふさぐ也
ほ　穴をみなふさぎて一二三をふさぐ也

う 三江をあけ二三とうんをふさくべし
ゑ 二三江をかけ一とうんをふさくべし
の 二三江とうんをあけて八斗ふさくべし
ひ 一とうんをあけ二三江をふさくべし
あう 三江とうんをあけて一二をふさくべし
あん 四とうんをおさて一二三をふさくべし
た 一三江をあけて三とうんをふさくべし
ゝ 二江をあけて一三とうんをふさくべし

竹上十二字

フホウヱヤリヒ上神イタルチ㙒

とをよく見覚えればおのづから民に
ヤタル 此三ツハ二様にする
ヤ 一三江をあけと二をふさぐなるべし
タ 一と三をふさぎ二と江とうんをあけるべし
ル 一三江とうんをふさぎ二をあけてもよし
ひとしく
たとへば双調(サウテウ) 盤渉(バンシキ)には指を用るも 黄鐘(ワウシキ)平調(ヒヤウデウ)
一越(イチコツ)にはたのヤタル をふくべしとうくんを
もちゆ 此ぶし掛て又八ぶ五調子用ゆまてとし
是ハ一越をもとするも

尺八のこと

一節切の尺八より尺八を出して長サ
一尺八分あるを以て尺八といふなり
節より下ハ七寸上ハ八分七絶竹の節をぬき
其よりててりしらべそのうちの寸法ハ定式(ぢやうしき)なし

尺八穴之異名

○悟是 ○真壊 ○前縁 ○賢仁 ○古根

理二 表一 三 四 五

三味線のひき事

一ノ糸 シキサカ 是一ノ糸ノちらつひや

シ ちぶくらのさハ中指にて上より引也

キ もちかすて也

サ ちらしてて上よりひく也

カ もちかも

二の糸 ツルトロステ 此上

ツ ちぶくらのさハ中指にて上よりひく也

ル もちかも

ト ちかして上よりひく也

ロ もちかや

ズ 三寸程下にて指にて上よりひく也

テ　もちふせり
三の糸　チリテレタラ　以上
チ　ちぶくらハさいせてゆびへ上よりひくせ
リ　しらふあり
テ　くすりして上よりえくあり
レ　もちふてそのふあり
タ　人差指下出てゆびへて上よりひくせ
ラ　もちふかな
右十六字そうあわせかゞ思ふ所に申しまするや
くすり　指づめひ初んびとよし指びひふて

もあしくす功ゆてハ爲なすし揃かくひ
足かりおく紙所作ふ無ゆ初んてよ引せ

異名之部

正月　歳初　歳始　歳首　発歳
献歳　開歳　王春　孟春　献春
上春　芳春　青陽　孟陽　孟陬
初節　太簇　端月

元日　元旦　元辰　鶏旦　正朝
三朝　三始　三微　淑節　韶節
歳朝　鶏日　初正　履端　元始

三春　天朧

二月　仲春　殿春　春分　春半

如月　夾鐘　陽中　中和　仲陽

令月　四陽

三月　始洗　蒼春　春暁　換月

暮春　五陽　季春　鶯鳴　竹秋

春末　春抄　淑春　春深　末春

上巳　重三　修禊　執蘭　流觴會

曲水宴　桃花宴　以上三月上巳日也

四月　孟夏　中呂　朱明　首夏

槐夏　六陽　余月　純陽　彭夏

早夏　立夏　清和　乏月

五月　仲夏　午月　蕤賓　鶉月

皐月　南訛　梅天　梅雨　夏五

夏半　盛夏　中夏

端午　重午　角粽　端陽　地臘

蒲宴　天中節　闘草日

六月　季夏　林鐘　庚伏　徂暑

晩夏　夏末　元陽　鶉火

七月　孟秋　夷則　初秋　蘭秋

蘭月　素商　流火　新秋　肅秋
秋初　秋深　新涼　相月　首秋
上秋　肇秋　商音　爽節
七夕　繍針　巧夕　曬衣夕　乞巧夕星合
八月　仲秋　南呂　桂月　西顥
清秋　正秋　淑秋　秋清　桂秋
秋穀　秋高　秋中　長月　鴈来月
豆雨　秋分　秋涼　仲商
九月　季秋　無射　涼秋　授衣
窮月　暮月　杪秋　晩秋

玄月　暮秋　殘秋　季商　暮商
秋末　鴻賓月
重陽　重九　陽九　菊節　落帽節
十月　孟冬　應鐘　陽月　吉月
良月　方冬　小春　始冰　初冬
泰正　玄冬　早冬　上冬　新冬
十一月　仲冬　黄鐘　暢月　陽復
氷壯　芸生　朔易　復月　辜月
冬半　新陽　亜歳
十二月　季冬　大呂　杪月　凋年

臘月　暁冬　冱冬　歳闌　窮陰
餘月　暮冬　歳晩
歳暮　歳終　歳季　歳晏　除臘
殺節　急景　窮律　窮冬　窮紀
歳晩　年歳　残臘　除月
人之父　尊公　令父　厳父　郎白
令椿　厳君　令尊丈　令府丈　老大人
人之母　令堂　令堂　令萱　萱堂
西堂　北堂　慈堂　[illegible]母　賢母
人之子　国器　令子　秀子　桂子

諸賢　象賢　蘭玉　掌珠　令嗣
人之兄　元芳　令兄　難兄　令伯
人之弟　令弟　季介　難弟　叔弟　次公
人之妻　令政　令壼　内子　内相
人之妾　令可　令寵　[illegible]
人之婿　令婿　佳婿　嬌客　門楣
人之媳　令媛　令郎　令愛　賢家婦
父我　家父　家厳　家君　家厳
膝下　家大人　死後ニ　先君子　故君子
母　老母　慈母　家慈　勝前　大人

兄　弟　妻　荊妻　嬶家　女子　婿　師匠　朋友　仁兄

長兄　長公　家兄　阿兄
阿叔　阿弟　阿仲　家弟
細君　内助　荊布　中饋
裙布　家荊　拙荊　備帚
荊房　裁房
愛玉　令愛　閨秀　閨愛
小壻　子婿　女夫　半子
先師　先生　夫子　尊師老大
親朋　親友　石友　同志
膠漆　莫逆　淡交　忘年交

僕　輿儓　葬礼　香典　鶯　百舌　鶴　玄鳥　時鳥　催帰

下部　行李　傔従　役夫
奚奴　赤脚　奴隷　伻来
台儓　掩棺　侍庐　報締
賻喪　脱驂　訃書　號喝
黄鳥　楚雀　谷鳥　黄公
黄鸝　百舌　鶪蛮　金庚
仙客　胎仙　丹頂　露巾
鷙鷁　点仙　丹侯
杜宇　子規　蜀魂　謝豹
周雎　参兮　反舌　子宇

鴈　霜禽　嗈鳴　陽鳥　金翔
鴨　雲化　伝鳥　錦鳥　水鶏　玉鳥　鴚鴨
雉　羽農　碧間　寫雉　光曉
花鶏　錦毛　毳翎　錦臆　擬羽
燕　天女　玄鳥　社君　野乙
蝶　粉蝶　長鬚　風車　海眼
蝉　集翅　送秋　風食　送秋
蛍　夜光　丹良　哥鵼　腫夜
螽斯　落雞　日星前　絡緯　鹿名

馬　追風　翻羽　天蹄　白顛
緑耳　大宛　奔霄　超影　雷足
牛　燒中　明力　大牢　大武
夜光　奄以　穀觫　賤栓　悖椎
猫　花貂　烏圓　花奴　白老
犬　羨狄　宋鵲　韓獹　烏龍
梅　木母　清客　氷容　孤山
編花　映雪　香魂　玉蘂　石麗
牡丹　花王　天香　夜白　牡氏
姚黄　魏紅　鞓紅　馬紅　午蕊

桃　仙菓　引客　銷恨　仙系
武陵花　助嬌　阿陽花　玄都英　一縣花
菊　隠逸　秋香　隠君子　金英
風標　落英　東籬　女華　金經臺
蘭　呉芳　呉香　去髪
梨　映花　玉容　紅濤　快果
橘　霜苞　落波　木奴　羊黄
柳　金糸　飛絮　白綿　弱郎
松　蒼髯　青牛　霜幹　木公
翠幹　雲臂　雪月　竜骨　新甫

竹　鳳尾　碧玉　此君　寒碧
今風　寒玉　合歓　竜孫　渭子
緑玉　翠池　雪母　琅玕　涼花
芍薬　玉右　夜光　金腰帯　砕西施
花宰相　雛群芳　玉孫焙　赤面　将軍村
葵　衛足　蜿黄　一丈紅　花家紫
蓮　水芝　藕根　瑤田　花君子
瓜　竜蹄　氷室　東陵　耳雲
梅　魚林　七絶　
薇　野客　芝巾　朱棘　無力花

茄 銀茄 七姓 紫崑崙 紫膨脝
酒 青州 雲液 竹葉 紅友
盃 觥船 琥珀 玉斗 蕉葉
茶 竜鳳 春雁 佳名 茗花
香 海木 雞舌 篆字 黒沈
水沉 焼栢 竜涎 崑崙耳 百鍊迦
香炉 石樓 金鑾 栢山 古鼎
硯 墨池 文房 石端 墨洞
竜璽 墨鴉 端溪 澄泥 紫潭
筆 髮城 猩毛 孟竹 雉毛

墨 紫毫 鷄毛 奴壽 結縁 尖頭
玄香 青松 松花 泥珠
蜂腰 松心 松烟 油竈 漉池
研 雲雀 九花 白羽 回風
蟬翼 招涼 団雲 蒲宿
繞 鸞影 百練 菱花 紫斑
線 緑月 赤蛟 宝媛 青鳧
笛 過雲 鳳翮 青葉 柯亭
雲和 桐君 響泉 四照
琴 清宮 緑綺 焦尾 桐系

弓	杖	釵	碁	舩	鐘	屏風	枕	几

烏号　黄弓　繁弱　烏角

鳩杖　扶老　霊寿　黒竹杖

龍泉　青霜　吹毛　莫耶

烏鷺　烏石　飛雹　子石

一葉　游家　竜艘　水馬

花鯨　金壺　春容　寸莛

雲母屏　金鵝屏　琉璃屏　孔雀屏

円木　琥珀　枕文　邯鄲

竹奴　青奴　烏皮　竹夫人

已上　異名終